

腹部ステントグラフト挿入術(EVAR)

大動脈瘤（俗に言う血管の”コブ”）は、動脈硬化の一種で、主に胸部や腹部の大血管に瘤状に大きくなった形状のものを言います。何も症状がないことが多く、多くはCTやエコー検査で偶発的に見ることが多いです。この疾患の怖い点は知らない間に大きくなって**破裂すると命の危険性が非常に高い**ということです。動脈瘤の形状にもよりますが、血管全体が広がった紡錘状瘤の場合は 5cm 以上のものが治療適応となり、血管の壁の一部が膨らんだ嚢状瘤の場合は破裂リスクが高いため大きさによらずに治療を検討します。

もし動脈瘤が見つかった場合、まずは、造影 CT を行い詳細に動脈瘤の評価を行います。治療適応となった場合には、患者さん一人一人に合わせて、開腹手術かステントグラフト術を選択します。ステントグラフトは、太ももの付け根に数 cm の切開だけで済みますので、**患者さんへの負担が少ない**のがメリットですので、ご高齢の方や全身リスクが高い方にご選択頂いています。一方で、まだ始まって間もない治療で長期成績がまだ十分とは言えませんので、年齢が若くて全身状態が良好な患者さんには開腹手術をお勧めしています。もちろん最終的には、内科外科で協議を行い、また患者さんのご希望も考慮して 1 番 best な方法をご選択するようにしています。

